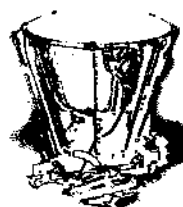


ガのん

愛媛交響楽団広報誌第32号
2004年12月発行
編集：打楽器パート



♪中田昌樹先生インタビュー

10月11日の練習のお昼休みに、中田先生にお話をうかがいました。

●久しぶりに愛響を振られたご感想は？

うーん…こっちが歳とったよね。(中田先生に振っていただいたのは、17回定期(89) 特別演奏会(91) 国際交流コンサート(93)) 愛響を初めて振ったのが結婚直前の頃で、現在、子供が14歳…その間の年数をしみじみと感じてます…。そのころのメンバーもまだ何人も残ってらっしゃいますよね。愛響はね、音がとっても明るい。棒下ろして、ぱっと音が出たときに、すごい明るい音がするなと思いました。瀬戸内の気候のせいかな？

●今回のプログラムは、チャイコフスキー3曲ですが、選ばれた理由や想いなどをお聞かせください。

僕はフランスで勉強をしたから、一番得意なのはフランスものなんだけど、その次に好きなのがロシアものなんです。チャイコフって性格もそうだけど生い立ちも含めて雪国なんです。僕は札幌の出身なんだけど、北国の寒い暗い…札幌はそんなに暗くないけど…そういう北方系の文化って相違があるかなと思います。さっきも言ったように、愛響の音は明るいでしょ。僕が持っているイメージは、それよりも一段暗くて、そんな響きが欲しくて、練習のときに長く弾けとか抑えてとかいろいろ言ってます。雪の中で生活したことのない人には、あの暗さ・寒さの辛さって、分かんないかな、って気はする。そういう意味で、九州や四国出身の人が演奏する「チャイ5」と北海道出身の人が演奏する「チャイ5」ってサウンドが違うと思うんだけど、どうかな？ でも、随分その雰囲気が出てきたよね。

それと、僕は若い頃に、キリル・コンドラシンに習ったことがあって、練習の中でも言ったと思うけれど、休みの取り方は彼に教わったんです。休みをもっと積極的に休め、ただ待っているだけじゃなくて休符をちゃんと数えろって…そういう、休符の意味をすごくたくさん教わった。僕のロシアものの原点は彼に習ったことがとても多いんです。彼はとても温かい人でね…そんな思い入れもあります。

●愛響に求めることは？

求めることは、全て練習の中で求めています(笑) 2楽章もとても大人しくなってきたし…。そんなに問題はないと思いますよ？

いろんなオーケストラを振ってみて思うんだけど、プロのオーケストラが一番簡単で、一般オケが一番大変。こんな音が出したいと要求したときに、プロの連中は方法を知っている。学生は時間だけはあるから、要求を出せば試行錯誤してみる。でも、一般オケは、そういう意味ではさらう時間はないし、昔と比べると技術は落ちているし、こういうストレスが溜まっているのが見える。ひとりひとりの技術の差もある。メンバーのモチベーションもいろいろ違う…楽しみたい人もいればマニアックに音楽を追究したい人とか…。ここはその差が少ないですよ。だから、割とやりやすいですよ。

●最初オーボエをなさっていたと練習中に仰っておられました、始められたきっかけは？

最初に持った管楽器はフルートだったんです。ピアノも弾いてたんだけど、僕の通っていた高校はオーケストラがあったんです。親に音楽に進むのを反対されていて、だったら新聞記者になろうと思っていて、だから、オーケストラに入って趣味で吹こうと、入学祝いに自分でフルートを買ったんです。ところが、高校3年のときに、新聞記者をやっている従兄がね、「新聞記者なんかなるな。音楽がやりたかったんじゃないのか？ 父親は説得してやるから」っていってくれて、方向転換。それで、フルートの先生のところに伺ったら、フルートは受験生いっぱいいて大変だよ、オーボエやファゴットだったら少ないけどねって、言われて…それを真面目に受け取って、それでオーボエに代わったんです。そしたら、浪人しないで、現役で入っちゃった…。

管楽器で受験したのは、高校の音楽の先生に、「指揮科を狙って浪人なんかしているよりは、何か楽器をやって音大に入ってしまう。指揮をされる側になったほうが実践的に分かるから。」と、助言されたから。結果として、とても良い体験になったと思います。

●指揮者になろうと思った理由は？

何かな？ 困るなあ、答えるのに二晩くらいかかりそうですね…。

●最後にいろいろな国に行かれて体験されたことで、面白かったことをご披露ください。

いっぱいあるよ～！

中でも慌てたのはね、ブルガリアのソフィアに呼ばれていったとき。もう20年近く前かな、当時は

連絡は電報で来ていてね。モーツァルトのディベルティメントに、136と138ってあるでしょ？電報の折り目がちょうどその6か8かのところにあって、どっちか分からなくて、たぶん8だろうな、と思って行って、練習を始めたところ、突然136番の二長調が始まって驚いたことが…。電報良く見たら、6だったんだよね…。(まだまだありましたが、以下省略)

ありがとうございました。

♪強力助っ人のご挨拶

今回のプログラム、ロメジュリと白鳥湖は、シンバルが重要でしかも体力的にとっても大変なんです。そこで、鹿児島より強力な助っ人が参加してくれます。一昨年まで団員だった酒匂信次さんです。ご存じの通り、彼はシンバルのスペシャリスト。今回の演奏会、シンバルの音にもご注目(?)ください。では、一言どうぞ。

皆様ご無沙汰しておりました。今回はお声をかけていただき、誠に光栄です。愛媛を離れて2年半、宮崎と鹿児島でそれなりに演奏活動は続けておりました。今回の演奏は、バランスに最大限気を使って、「えっ、シンバルって今回の演奏会出番あったっけ？」という感じに、地味に、「空気のような存在感」を目標に演奏したいと思っています。(ウソです。) 私は文才も何も無いので、今までシンバルばかり叩いてきて、思うことを順不同に書いてみたいと思います。

・「シンバルやっててよかった！」と思った曲

→ブルックナーの交響曲第7番、チャイコフスキーの交響曲第4番、マーラーの巨人、ワーグナーのマイスターシンガー前奏曲あたりでしょうか。

・シンバルを演奏するうえで、できれば一生避けて通りたい曲

→ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番の3楽章。学生時代、1回だけ演って死にました。

曲のどこにシンバルが入っているかご存知でしょうか？あと、パガニーニのヴァイオリン協奏曲1番。この安直なシンバル起用法…シンバルのパート全部カットしたいくらいです。

・演奏会のアンケートを見てびっくりしたこと

→フィンランディアの演奏をした後、女子中学生らしき筆跡で「シンバルだけオーケストラとずれていて、演奏を壊していた。」とコンクール審査評みたいなアンケートを見たとき。

もともとシンバルだけ裏拍なんだ！

・演奏をしていて一番恥ずかかったこと

→大学時代、ローマの松の「アッピア街道の松」を叩いて、調子に乗ってシンバルを上に開いたら、シンバルが反転して頭に当たったこと。しかもそれがテレビに映ってしまったこと。

・最近シンバルをしていて、「これはいい！」と思ったこと

→腰が更に出てきたので、音を止めるのが楽になったこと。(この「腰」が今回のロメジュリの音止めに威力を発揮します。)

ネタが尽きたのでこのあたりで… 一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

酒匂 信次

♪新入団員紹介 (印刷の関係上お写真を入れることができません。申し訳ありません)

◇ 古賀 小百合 さん : Vn

全国勤務当たり前の職場に勤め始めて2年目の鹿児島人です(次はいったいどこへ行かされるやら…)ヴァイオリンを続けてそこそこの年数が経ちますが、中高時代は部活でオーボエをやったりパーカッションをやったり、学生時代は狂言サークルに入ったりと浮気な未知を歩んできました(笑)愛響に入団し、「あ、やっぱり私は音楽がいいんだなあ」とつくづく実感しています。これからよろしくお願いします。

◇ 萩野 周 さん : Vn

7月に愛媛に引っ越してきました。ようやく松山にもなれ快適に過ごしています。愛響の冬の定演の練習が始まる少し前に引っ越してきたので最初から練習に参加することが出来てうれしく思います。これからもみなさんと音楽を楽しみたいと思いますのでよろしくお願いします。

◇ 中舗 愛 さん : Vn

ヴァイオリン歴4年の未熟者ですが、よろしくお願いします m(_ _)m

◇ 山島 達夫 さん : Vn

10月より参加させて頂いております新入団員の山島です。現在、司法修習生として松山地方裁判所に勤務しています。東京では、狛江市の市民オーケストラでコンサートマスターを務めていました。父の転勤の関係で、小学校低学年の2年間に松山市内で過ごしたことがあり、人生の出発点とも言える幼少期を過ごした松山の地で、社会人の第一歩を踏み出せることを、大変光栄に思っています。来年6月までという限られた期間ではございますが、皆様、よろしくお願い申し上げます。

◇ 道下 紀子 さん : Fl

なんだか恥ずかしいほどいつも一杯一杯ですが、愛響での練習はとても楽しいひとときです。これからも宜しくお願いします。

編集後記：出来上がってみると、なんだか、趣味丸出しになってしまいました…。でも、たまには、こういうのも良いかと…。協力していただいた団員の皆様に多謝。(打楽器一族：花岡・仙波・和田・尾方・大政・今井)

※打楽器からのわがままなお願い

今回はそれほどでもありませんが、例えば夏に演奏した池辺先生の“シンプレックス”は、打楽器をたくさん使いました。人数がそれほどでなくても、一つ一つの楽器が大きいので大変に場所を必要とします。また、楽器間の移動をすることもあります。練習している曲が、鳴り物が賑やかだな…と思われるときには、少し上手寄りに座っていただくと、打楽器は大変助かります。ついでに足元がすっきりしているととっても助かります。ご協力、よろしくお願いします。

♪打楽器クイズ〜♪

なじみがあるようなないような打楽器、皆さんは、いくつ分かりますか？

第1問 以下の中で「打楽器」に属さないのはどれ？

- a. むち b. フライパン c. 洗濯板 d. 馬の骨

第2問 スネアドラム(小太鼓)を叩くのはスティック、バスドラム(大太鼓)を叩くのはピーター。では、ティンパニは??

第3問 以下の楽器の重さ又は大きさは？

- a. チャイム(kg) b. ヘアシンバル(kg) c. タムタム(銅鑼)(cm)

第4問 知っている方は知っているドラマ「水戸黄門」の主題歌《ああ、人生に涙あり》(これもちよっとまめ知識!?)に使われている『か~~~~っ!!』と鳴る楽器は何？

第5問 次の奏法を解釈しなさい。

Tam-Tam rub with super-boll (Large size) SYMPHONY V SIMPLEX (池辺晋一郎)より

第6問 カスタネットが初めて使われたオーケストラの曲は何？

- a. 白鳥の湖 b. カルメン c. 三角帽子

答えは、次の通り。

第1問 なし 叩いて音が出る物はすべて打楽器なのです。これらの4つは実際に使われる楽曲があります。世界最古の楽器こそ打楽器です。誰でも子供の頃は打楽器奏者であったはず！

第2問 マレット(木槌の意) とはいっても楽器ごとのこの呼び方は特に限定されているわけではなく、おまけに何で叩くかはその時々第! ?なので「バチ」でもいいんですけど。なお、演奏中後方より「バチ」が飛んでくる可能性があります。日頃の行いにご注意ください(笑)

第3問 a.約 80kg~100kg メーカーや管の本数にもよりますが愛響で使用しているものもこのくらいの重さです。運搬時にはぜひご理解ください(笑)ちなみに演奏する場合には管のてっぺんを叩きます。決して管の真ん中を試し打ちしないでくださいね。それを守って下されば、試し打ち、歓迎致します。

b.約4kg~6kg これだけの重さを腕のみで支えてがんばってます！ぜひ酒匂さんを応援してください!!(酒匂さんのシンバルは大きいので約7.5kg)もちろんシンバルにもたくさん種類があります。大きさや厚みの違いでかなりの違いが出てきます。曲や音色のイメージによって使い分けます。

c.約 30センチ~110センチ これもメーカーによりますが大きさによって音の差があります。楽曲によっては大きさを指定しているものもあります。曖昧な区別ではありますが、一般的に中国系の平らな丸形のものをタムタム、東南アジア系の中央に突起のあるものをゴングと呼びます。

第4問 キハーダ、もしくは、ピプラスラップ

キハーダはロバや馬の頸の骨で作られた楽器。メキシコ、キューバ他中南米で見られ、前歯部分が支点になり、片頬部分をたたくと、奥歯がカタカタと音を出します。ピプラスラップはキハーダの現代版で、木の箱の中に内蔵された金属製のツメが振動し、箱が共鳴するというしくみです。音が有名なわりにはこれらの楽器けっこうマイナーですよね。どういうわけか演歌にはよく出てきます。有名なところでは、与作。奏法も独特なので機会がありましたらぜひじっくり観察してみてくださいね。

第5問 銅鑼 大きいサイズのスーパーポールでござれ

前回の演奏会でご覧になった方も多いかと思いますが、その字のごとくスーパーポールで銅鑼をこすります。イメージ通りのおもしろい音がするのでまたまたびっくりです。(ちょっと文字では表現しづらいのですが、「によ~~~~ん」とか「くにゅ~~~~ん」という感じの音が出ます)このように打楽器には思いもよらない奏法が世界中にあるのです。固定観念の持ち主には打楽器はちよっと難しいかも?だったら今現在演奏している打楽器メンバーはいったい...??

第6問 b.カルメン(ピゼー) カスタネットはもともと民族舞踊(フラメンコ等)で使われていた楽器です。これが形自体も柄付きや機械式などに進化し、1875年ピゼーが初めてオーケストラでこの楽器を使用しました。ちなみによくご存知の赤と青のカスタネットとは違い、必ず2枚を一対にし二対で演奏されます。